

# 北海道大學 台灣原住民族法工作坊

北海道大学 台湾原住民族法ワークショップ

Workshop on Laws for Taiwanese Aborigines, Hokkaido University

王雅萍 國立政治大學民族學系 講師

翻譯 島加奈子

Aynu人是日本北海道獨有的民族，筆者長期關心世界原住民運動，印象中北海道Aynu人於國際原住民運動領域非常活躍，北海道跟台灣兩地的原住民團體常有交流，日本政府對Aynu族的政策在1997年後有顯著的變化，在日本政府通過《Aynu文化振興法》風潮影響下，北海道大學於2007年4月成立校級的「Aynu・先住民研究中心」。

政大原住民族中心主任林修澈教授，獲得邀請前往該校參加工作坊發表專題演講。在政治大學學校國際教育交流中心的經費支持下，組團於8月20日到25日前往北海道參訪。

8月21日北海道大學Aynu・先住民研究中心辦理一天的工作坊，因為該中心需要解決Aynu人的法律地位問題，特別指定邀請台灣三位學者進行專題報告。上午由政大林修澈教授發表台灣近年的民族認定研究成果，王雅萍講師報告近年平埔族的運動現況，下午是由清華大學黃居正教授發表跟原住民智慧財產權有關的報告。與會者主要是北海道

アイヌ人は日本北海道唯一の民族です。筆者は長期にわたり世界の原住民族運動に関心があり、その中でも北海道のアイヌ人は国際原住民運動の領域で大変活躍している印象があります。北海道と台湾両地の原住民団体は常に交流があります。日本政府のアイヌ族に対する政策は1997年から顕著な変化が出てきました。日本政府で「アイヌ文化振興法」が通過後、その風潮、影響の下、北海道大学では2007年4月学校レベルの「アイヌ・先住民研究センター」が設立されました。

政治大学原住民族研究中心主任林修澈教授は、北海道大学の招待を受け、台湾原住民族法ワークショップにて特別テーマによる講演を行いました。政治大学国際教育交流センターの経費支援の下、報告者グループは8月20日から25日まで北海道を訪問しました。

8月21日、北海道大学（訳者注 以下「北大」）アイヌ・先住民研究センターでは一日間のワークショップを開催し、アイヌ人の法律地位問題を解決する必要があるとして特別に台湾の学者を三名指名で招待し、特別テーマによる講演を企画しました。午前は政治大学林修澈教授が台湾近年の民族認定研究の成果を、同大学王雅萍講師が近年の平埔族運動の現況を紹介、午後は清華大学黄居正教授が原住民知的財産権関連の報告を行いました。参加者は主に北大法学部の教授及び博士課



大學法學院教授和博士班學生，會場提問討論非常深刻，工作坊後有懇親會讓學者有充分時間討論與交流。

北海道大學創立於1876年，是舊帝國大學之一。其前身是札幌農學校，是日本首座授予學士學位的大學。第一代副校長是來自美國的克拉克博士，他當年離開札幌時，留下了「Boys, Be Ambitious!」（孩子們，要胸懷大志）的學訓，變成該校的教學理念，成為讓人印象深刻的名言。

根據2006年的統計，北海道大學學生數18,080人，其中研究生占35%，政大15,167人，研究生占40%。兩校學生數相當。但是該校教師有2,142人（2006年統計），政大教職員工是635人，每年的經費預算是政大的20倍。

程的學生で、会場では質問や討論が大変活発に交わされ、またワークショップ後の懇親会は参加した学者たちが討論、交流するのに十分な時間がありました。

北大は1876年旧帝国大学の一つとして創立されました。その前身は札幌農学校で、日本で初めて学士学位を与えた大学です。初代副校長はアメリカから来たクラーク博士で、札幌を離れる際Boys, Be ambitious!（青年よ、大志を抱け）と言う校則を残しました。この言葉は北大の教学理念となり、大変印象深い名言となりました。

2006年の統計によると、北大の学生数は18080人、うち大学院生が35%を占めています。政治大学は15167人、うち大学院生が40%を占めることから見ると、両校の学生数は大変似ています。但し、北大の教師が2142名（2006年統計による）いるのに対し、政治大学の教職員は635名、また、毎年の経費予算は政治大学の20倍になります。



▲ 2007年8月21日北海道大學愛努・先住民研究中心舉辦「台灣・原住民族法工作坊」，由常本照樹主任主持。



工作坊後安排參訪北海道大學和Aynu人團體，8月22日上午參觀北海道大學，校園非常漂亮，學生福利社有各式各樣精美有特色的學校紀念品，北海道大學書城中有滿櫃的研究北海道和Aynu人的書籍。令人印象深刻的是該校總合博物館，館藏豐富，有創校125周年校史展示、昆蟲自然史展、該校第一個Aynu人語言學教授知里真志保博士紀念專櫃。下午先拜訪Utari協會Aynu同胞協會)，拜會事務局次長竹內涉和貝澤主任，發現台灣的原民會前主委尤哈尼曾在該會發表演講，該會附設展覽室，展示很豐富的Aynu民族運動史，值得原住民族委員會參考。然後再前往北海道Aynu文化振興・研究推進機構，拜會秋野茂樹主任，該會也正在努力做Aynu語言文化的復振工作，相談甚歡。最後來到北海道立Aynu文化研究中心拜會古原敏弘課長(民俗學家)和小川正人研究員(研究北海道先住民教育史)，該中心Aynu語料和史籍文獻典藏非常豐富，值得原住民研究者前往蹲點做比較研究。晚上我們來到札幌郊外的Aynu工作坊與小川隆吉(Aynu運動者)、小川早苗(工藝家)、小川基(ToyToy, Aynu音樂家)一家人暢談，小川早苗太太手巧，廚藝更好，我們意外的品嚐到好吃的Aynu風味料理。

ワークショップの後、北大とアイヌ人の団体を訪問する機会がありました。8月22日午前北大を参観しました。キャンパスは大変綺麗で、交流プラザ(学生生協)では各種多様なきれいな学校グッズが売られて、大学書店には北海道とアイヌ人研究の蔵書が棚いっぱい並んでいます。中でも特に印象に残ったのが北大総合博物館で、北大創立125周年の歴史展示や、北大の昆虫学展、また北大最初のアイヌ人言語学教授知里真志保博士の記念専門展示などがあります。午後は北海道ウタリ協会を訪問、事務局次長の竹内渉氏や貝澤主任にお会いし、台湾原住民委員会前主任委員のユハニ・イスカカヴット氏がウタリ協会で講演を行っていたことを知りました。付属の資料展示室にはアイヌ民族運動史に関する資料が豊富に展示され、台湾の原住民族委員会にも大変参考になるものでした。それからは財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構で秋野茂樹主任にお会いし、こちらでもアイヌ言語文化の復興に力を注いでいるとお聞きし、大変楽しい時間を過ごしました。最後に北海道立アイヌ民族文化研究センター古原敏弘課長(民俗学者)や小川正人研究員(北海道先住民教育教育史研究者)を訪問しました。当センターではアイヌ語の資料や歴史文献の資料が豊富で、原住民研究者が比較研究を行うのに大変有意義な場所であると実感しました。夜は札幌郊外のアイヌワークショップを訪れ、小川隆吉氏(アイヌ運動者)小川早苗氏(工芸家)小川基氏(ToyToy、アイヌ音楽家)一家と談笑しました。夫人の小川早苗氏の技術は素晴らしく、また料理はもっと素晴らしく、予期せずアイヌの伝統料理を味わうことができました。



後三天走訪白老→登別→鷓川→二風谷→新千歲機場，馬不停蹄的做訪問。8月23日一早離開札幌，搭乘鈴蘭2號火車，午前抵達白老。拜會白老Aynu博物館中村齋館長、野本正博學藝員、北原次郎太學藝員，以及跟負責歌舞展演的人員深入訪談，收穫很多。

白老Aynu民族博物館，很像我們的屏東瑪家原住民文化園區，晚上住在登別的一個溫泉旅社，一泊二食，有露天的溫泉，在月光下泡湯還可以看到太平洋的漁家燈火，想起了台東知本的溫泉。8月24日一早從虎杖濱民宿租車出發，要長途跋涉到二風谷，司機山田先生是Aynu人，民宿旁就是Aynu神謠集的故事場景，窗外的岬角就是Aynu傳說神跌倒時屁股坐的地方。登別是Aynu民族的神謠集的故事區，這裡是Aynu民族的語言學家知里幸惠和知里真志保的出生地，我們特別去他們的墳墓和紀念碑前致敬。

我們去看鷓川大漁神社的地藏尊大祭，帶路的是在北海道大學工作坊認識的一個美國學者Jeff Gayman，他在九州大學寫博士論文，已經在當地做有關Aynu教育的田野調查多年，將來也許我們會在2008年的世界原住民教育會議再度相遇。當地的Aynu人怕被歧視，根本不敢公開承認自己的民族身份。經

其後的3日間は白老、登別、鷓川、二風谷から新千歳空港まで駆け足で訪問しました。8月23日早朝札幌を離れ、すずらん2号で午前白老に到着しました。白老アイヌ博物館中村齋館長、野本正博学芸員、北原次郎太学芸員及びアイヌ歌舞表現者を訪問し、話を聞くなど収穫が大変多いものでした。

白老アイヌ博物館は台湾屏東瑪家原住民文化パークと大変似ています。夜には登別の温泉旅館に泊まりました。一泊二食に露天風呂があり、月明かりの下で太平洋の漁火を見ながら温泉に浸かっていると、台東の知本温泉を思い起こさせます。8月24日早朝虎杖濱の民宿からレンタカーで二風谷へ向けての長旅が始まりました。運転手の山田さんはアイヌ人で、民宿のそばにはアイヌ神話民謡の場景が広がっています。窓から見える岬はアイヌ伝説によると神が転んでしりもちを着いた場所とされています。登別はアイヌ民族の神話民謡集の舞台です。ここはアイヌ民族言語学者知里幸恵と知里真志保の出生地で、私たちは特別に彼らの墓と記念碑をお参りさせていただきました。

その後、鷓川大漁神社の地藏尊大祭を見学しました。案内者は北海道大学ワークショップで知り合ったアメリカ人学者ジェフ・ゲーマン（Jeff Gayman）氏です。彼は九州大学で博士論文を執筆し、当地で長年にわたりアイヌ教育に関するフィールドワークを行っています。今後2008年の世界先住民教育会議でまたお会いできることでしょうか。当地のアイヌ人は差別偏見を受けることを恐れ、自分の民族身分を公開し、承認することが出来ませ



由Jeff的介紹，我們在短短一個小時內，認識祭典上的所有Aynu朋友。鷓川大漁神社結合佛教的地藏王信仰跟神社信仰，呈現文化合成的信仰模式。為了趕路，就在7-11買三明治和咖啡裹腹充飢，飛車趕往二風谷，停留一天一夜。

平取町的二風谷（Nibutani）是個很迷你的、很漂亮的Aynu人聚居區。可說是Aynu民族運動的聖地之一，以反水庫抗爭訴訟運動（史稱二人叛亂）聞名。二風谷當地共有三個做得很好的博物館，其中沙流川歷史博物館，室外的水庫公園很有特色，展示內容以地質和動植物為主，是日本國家級以河川流域生態展示為主的歷史館，展覽設計很有水準，可以提供泰雅族構思流域展示博物館時參考。平取町

んでした。Jeff氏の紹介で1時間と言う短い間に大祭に携わるアイヌ人全てと知り合うことが出来ました。鷓川大漁神社は仏教の地藏王信仰と神社信仰が融合し、文化合成の信仰モデルを呈しています。先を急ぐためセブンイレブンで買ったサンドイッチとコーヒーで飢えをしのぎ、車を飛ばして二風谷へ行き、一晚過ごしました。

平取町二風谷（にぶたに）はミニサイズの、大変綺麗なアイヌ人居住地区です。アイヌ民族運動の聖地で、二風谷ダム抗争訴訟（いわゆる二人の反乱）で有名になった場所です。当地には合計3つの立派な博物館があります。そのうちの一つ沙流川歴史館室外のダム公園は大変特色のある場所です。展示内容は地質と動植物を主とし、日本国家レベルの河川流域生態展示を主とする歴史館です。展示設計の水準は高く、台湾タイヤル族の流域展示博物館構想時に参考になる資料を提供できるのではと思います。平取町立二風谷アイヌ文化博物館は展示物が大変多く、時間を少し長く取って細かく参観するだけ

# Hokkaido

- ▼ 2007年8月21日北海道大學愛努先住民研究中心舉辦「台灣・原住民族法工作坊」，綜合座談的情況。





立二風谷Aynu文化博物館，東西非常多，值得多留點時間仔細參觀。一個是萱野茂二風谷資料館，萱野茂先生是Aynu人第一個國會議員，於2006年過逝。他實在太厲害了，國小學歷，做木工出身，為了讓日本人了解Aynu人的民族文化，自己動手搜集資料做展示館，自己蓋房子復現文化，自己弄廣播節目傳承語言，自己整理Aynu的信仰世界觀，這本論文還讓他取得博士學位，真是令人佩服的Aynu耆老。

在二風谷替我們導覽博物館的都是Aynu的民族運動領導者後代，一個是貝澤耕次先生，Aynu三大思想家之一貝澤正之子，一個是萱野茂的兒子萱野志朗館長，真是濃濃的Aynu學習之旅。

一路走來，筆者有點感慨，雖然日本人對Aynu學研究非常豐富細緻，在現實社會中卻沒有保護尊重Aynu人，台灣原住民目前的處境還比日本Aynu人幸福，從這點來看，邁向多元文化與鼓吹互相瞭解尊重的台灣是進步的。



▲ 台灣・原住民族法工作坊的海報 (2007年8月21日)

の価値があります。もう一つは萱野茂二風谷アイヌ資料館です。萱野茂氏はアイヌ人最初の国會議員で、2006年に逝去されました。彼は大変すごい方で、小学校を卒業後木工業の仕事を経て、日本人にもっとアイヌ民族を理解してもらおうと、自ら資料を集め、展示館を作り、家を建て、文化を復元しました。自身でラジオ番組を作り言語の伝承をし、アイヌの信仰世界観を整理した論文は博士号を取得するなど、このアイヌ人長老には大変敬服します。

二風谷で博物館を案内していただいたのは全てアイヌ民族運動リーダーの2代目です。貝澤耕次氏はアイヌ三大思想家の一人貝澤正の子供、もう一人は萱野茂氏の息子萱野志朗館長で、本当にアイヌ文化を大変深く学習した旅でした。

旅を振り返って、日本人はアイヌ学研究に対して大変豊富で細かい研究を行っていますが、現実社会ではアイヌ人を保護、尊重することがなく、台湾原住民の現在の処遇は日本のアイヌ人より幸せだと感じました。この点から見ると、多元文化へ向かうことと相互理解や尊重を鼓吹する台湾は進歩しているとも言えます。